| 科目ナンバリング | U-LAS00 10019 LJ34 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<英訳> | 科学論II<br>Philosophy and History of Science II | | 担当者所属職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 | 青山　拓央 |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 哲学・思想(基礎) | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2026・後期 | 曜時限 | 月5 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

「科学論I」と同様、ある具体的なテーマに関して科学が何を見いだしてきたか、さらに哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます（担当教員の専門は哲学）。本授業では「心と時間」との関係を中心的なテーマとして掲げ、さまざまな時代・地域の哲学研究や、心理学・物理学・脳神経科学などの知見を参照しつつ、上記の課題に取り組みます。「今」という時間の特異性や、記憶のメカニズム、そして、それらと「心」との関わりを確認していくことを通じて、科学論の一つの在りかたを提示します。

**[到達目標]**

「心と時間」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。

**[授業計画と内容]**

下記の５つのテーマに沿って、「科学とは何か」「心と時間との関係は、いかなるものか」を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。

１．ガイダンス：諸学問の特性について（第１週）
２．「心と時間」の哲学における諸問題＃１（第２週～第５週）
　（デネットやチャーマーズなどの議論を紹介。）
３．時間と自然科学との関係について（第６週～第９週）
４．「心と時間」の哲学における諸問題＃２（第１０週～第１３週）
　（近年の多様な研究成果を紹介。）
５．総括と、担当教員自身の見解について（第１４週）

第15回：フィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。

**[教科書]**

使用しない

科学論II(2)へ続く↓↓↓

**科学論II(2)**

**[参考書等]**

**（参考書）**

**青山拓央『心にとって時間とは何か』』（講談社現代新書）**ISBN:978-4-06-518022-8

**[授業外学修（予習・復習）等]**

**授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。**

**[その他（オフィスアワー等）]**

**教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。**

**[主要授業科目（学部・学科名）]**

**総合人間学部**